

第2学年B組 国語科学習指導案

授業者 進藤 由貴子
研究協力者 成田 雅樹 高橋 菜由
教材分析協力者 大橋 純一

1 単元名 つたわるように書こう ～わたしのやさい 今日のはっけん～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

1年生「知らせたいな見せたいな」の学習では、対象を詳しく観察し、特徴について説明する文章を書いている。また、生活科の学習では、五感を使い、「大きさ」「色」「形」「触った感じ」などの視点に沿ってアサガオを観察し、観察カードを書くことを行ってきた。2年生「きょうのできごと」では、経験したことから書くことを見付け、「出来事」を「いつ」「どこ」「だれ」「どうした」という視点で書くことや「思ったこと」を付け足すことを学んできた。これらの学習を通して、子どもたちは、自分が書きたいことを見付け、視点に沿って材料を集め、それを基にまとまりのある文章を書くことができるようになってきている。

しかし、自分が伝えたい内容に合わせて視点を選択して書いたり、適切な表現を吟味して書いたりすることはまだ難しい。「花の色はピンクです。葉っぱの形は普通です。においはしません。」というように、事実や出来事の羅列になってしまうことが課題として見られた。その原因は、「何のために書くのか」という目的意識を明確にもっていないため、「どこを詳しく書くとよいか」という内容の取捨選択ができていなかったためだと考えられる。また、「これを読んで誰にどうなってほしいのか」という相手意識が薄かったため、自分が書き表したかったことが適切に表現できているかどうかを見直し、よりよい表現にすることができなかったためだと考えられる。

(2) 単元について

本単元では、知らせたいことが相手に伝わるように、書き表し方を工夫して書く資質・能力を高めることを目指す。

単元を通して、自分が育てている「わたしのやさい」の様子を家の人に伝えるために書く学習を行う。子どもたちは、生活科で野菜を育てる学習を進める中で、自分が大切に育てている野菜の変化に気付き、発見の驚きやうれしさを家の人に伝えたいという目的意識をもつことができるようになる。また、「家の人に分かってほしい」という相手意識が「知らせたいことを相手に伝わるように書く」必要性につながっていく。家の人に自分の発見が伝わるためには、観察して分かったこと全てを書くのではなく、変化を捉え、自分が最も伝えたい視点を選択し、適した言葉で書くことが必要になる。野菜という具体物を対象としているため、子ども同士で実際の野菜の様子と文章表現を照らし合わせて「対話」することで、よりよい表現について共有することができる。目的意識・相手意識を明確にしながら、何度も自分の表現を見つめ直し、相手に伝わるように書き表し方を工夫する子どもの姿を期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

子どもたちが自覚的に自分の文章表現を見つめ直し、適切な表現で書く力を育むためには、自分の文章を見つめ直すための明確な視点「学びのものさし」が必要である。教師による添削ではなく、「何のために表現するのか」「伝えたい内容は何か」「どう表現できていればよいのか」を自覚し、自らの力で自分の文章をよりよい表現にしていく子どもの姿を目指したい。

そのために、導入では子どもたちの願いを基に単元のゴールを設定し、必要な学習計画を立てる活動を設定することで明確な目的意識・相手意識をもつことができるようにする。生活科の学習と結び付け、「おうちの人に自分が育てている野菜の様子を伝えたい」という単元の目的をもつことで、「知らせたいことを相手に伝えるために書き表し方を工夫して書く」という、この単元で付けたい力を子ども自身が目指す目標とすることができる。

また、よりよい表現につながる具体的な視点を共有する場を設ける。教師が提示するエラーモデルを改善するための話し合いや、題名を隠して互いに読み合い、何について伝えたい文章なのかを考える活動、互いの文章のよい表現を見付け合う活動を設定する。これらの「対話」を通して、知らせたいことが相手に伝わるための具体的な視点を徐々に明確化し、共有していく。この「伝わるように書けているか」ということが、この単元で繰り返し使う「学びのものさし」となる。始めは、「視点に沿って書いているか」「メモした言葉を文にできているか」という書き方の見つめ直しであったものが、「伝えたいことがはっきりしているか」「伝えたいものに合った視点の取捨選択ができていないか」「分かりやすい適切な表現になっているか(比較・例え)」という具体的な表現内容の見つめ直しに深まっていく。自分たちの言葉で明確化された「学びのものさし」と自分の文章を照らし合わせ、自覚的によりよい表現に更新させていく子どもたちの姿を目指したい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 知らせたいことを分かりやすく伝えるために、語句のまとまりに気を付けて書いている。

(B-24)

(2) 知らせたいことが相手に伝わるように、視点を選択したり表現の工夫をしたりして書くことができる。

(B-9・21・35・37・40)

(3) 知らせたいことが伝わることの楽しさを感じ、自分の表現のよさを自覚しながら進んで書くこととする。

(ウ)

4 単元の構想（総時数 9 時間）

思い出して書こう～きょうのできごと～
 ・経験したことから書くことを見付け、伝えたいことを明確にして書く。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1 2	(1) 単元のゴールを設定し、学習計画を立てる。 ・お母さんにミニトマトのことを知らせたい。 ・花が咲いたことを伝えたいな。 (2) 生活科の時間にメモしたことを基に、「お試しの文章」を書く。 ・これまでの学習で使った「形」「色」「大きさ」を書けばよさそう。 ・日記には気持ちも書いたよ。	・相手意識や目的意識を明確にし、必要感をもって学習を進めることができるように、ゴールでの目指す姿やそのための学習計画を話し合う場を設定する。 ・現在の自分の学びの到達度を知り、目標を意識しながら学習を進めることができるように、書いてみて困ったことやできるようになりたいことを出し合う場を設ける。	・家の人に自分の野菜の様子を書いて知らせるために必要なことを考え、進んで学習計画を話し合っている。(ウ) ・家の人に自分の野菜の様子について知らせるために、メモを基に文章を書いている。(B-24)
学習課題 おうちの人にはっけんがつつたわるように書こう。			
3 本 時	(3) 伝わる文章になっているか確かめる。 ・先生は何を伝えたいのかな。 ・1 番伝えたいことを詳しく書いたらよいと思うな。 ・順序も考えたら分かりやすいよ。 ・大きさを何かに例えてみたらどうかな。 ・わたしの文章も読み直したい。	・「伝わるために必要な表現」に気付くことができるように、教師のエラーモデルを提示し、改善点を話し合う活動を設定する。 ・自覚的に文章をよりよくしていくことができるように、「対話」を通して見付けた「伝わる表現にするために必要なこと」を子どもたちの言葉でまとめ(学びのものさしづくり)、それを使って自分の文章を見直す活動を設定する。	・知らせたいことを伝えるために、伝えたいことに合った視点を選択していたか、適切な表現で書くことができているかについて自分の文章を読み直し、よりよい表現にできそうなところを見付けている。(B-9, 21)
4	(4) 読み直して気付いたことを基に推敲する。 ・題名に書いた一番伝えたいことが伝わるには、どうしたらよいか。 ・形と色も付け足してみよう。 ・1 回目を書いたときより、つぼみのことが伝わるように書けた。	・知らせたいことが相手に伝わっているか確かめることができるように、題名を隠して読み合い、題名を当てる活動を設定する。 ・自己の変容に気付き、「伝わるための表現」の必要性を実感することができるように、2 時で書いた文章と比較して、振り返る場を設ける。	・自分の文章を読み返して、知らせたいことが伝わるように推敲している。(B-35)
5	(5) 互いに読み合い、よい表現を見付ける。 ・〇〇さんの文章を読んで、「～みたい」なという書き方を真似してみたいと思った。 ・例えると分かりやすいね。	・次のよりよい表現につなげていくことができるように、友達と文章を読み合ってみて見付けたよさについて話し合い、出されたよさについて分類する場を設ける。(学びのものさしの更新)	・書いたものを読み合い友達のよい表現やその理由を考えている。(B-40)
6 7 8	(6) 知らせたい野菜の様子が家の人に伝わるように書く。	・「伝わるよさ」を実感することができるように、事前に保護者に協力をお願いし、第 4 時で書いた文章のよく分かったところに赤線を引いてもらったものを、子どもたちに提示する。	・伝えたいことが伝わる文章になるように、この学習を通して見付けた書き方のよさを生かして書いている。(B-9, 21, 35)
9	(7) 学習を振り返る。	・第 2 時で書いた文章とその後の文章を比較する活動を設けることで、自分の表現のよさやできるようになったことを自覚することができるようにする。	・自分の学習の成果が次の学習に生かされるように、自分の表現のよさについて具体的に振り返りを書いている。(B-37)

◎本単元で育む主な資質・能力
 知らせたいことが相手に伝わるように、書き表し方を工夫して書く。(B-9, 21, 35)

組み立てを考えて書き、知らせよう～こんなもの、見付けたよ～
 ・事柄の順序に沿って、「初め」「中」「終わり」を考えて書く。

5 本時の実際 (3 / 9)

(1) ねらい 野菜の様子を表す言葉に着目し、適切な表現について話し合うことを通して、知らせたいことが相手に伝わるために必要なことを考え、自分の文章を読み返すことができる。 (B-9, 21)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
3分	① 学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 何のために書くのかを確認することで、相手意識を明確にもって学習を進めることができるようにする。
20分	<p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おうちの人にはっけんがつたわる文しょうになっているかたしかめよう。</p> </div> <p>② 文章を読んで、伝わる書き方にするための改善点を話し合う。</p> <p>焦点化</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさん書いてあるけど、伝えたいことがよく分からないよ。 一番伝えたいことを詳しく書いたらよいと思うな。 <p>構成</p> <ul style="list-style-type: none"> 形のこと書いたらよいと思うよ。 順序も考えたらいいよ。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大きさは普通です。」だと、どのくらいか分からないから、分かるように書いたらいいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わる書き方にするために必要なことに気付くことができるように、教師が作成した、伝えたいことが定まっておらず、表現が分かりにくい文章を提示し、改善点を話し合う活動を設定する。 ○改善点について、よくない理由を問い返すことで、具体的にどのような表現が必要なのか、子どもたちの言葉で表すことができるようにする。
7分	③ 話し合いを通して分かった「伝わる書き方のこつ」をまとめる。	○明確な視点をもって自分の文章を見直すことができるように、子どもたちが見つけた「伝わる書き方のこつ」(学びのものさし)を具体的な表現で整理し、視覚化する。
15分	④ 見つけた「こつ」を使って自分の文章を読み直す。	○自分が伝えなかったことと自分の文章のずれに気付くことができるように、家の人に最も伝えなかったことは何かを確認し、吹き出しに書く活動を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> 変えたらよいと思うところに赤線を引く。 どのように変えたらよいかメモする。 友達と読み合っってアドバイスし合う。 <ul style="list-style-type: none"> つぼみができたことを知らせたい。 それなら、くきのことはいらなかも。 つぼみの様子がよく伝わるように形と色のことを詳しく書こう。 形が面白いから、先に形のことを書こう。 似ているものに例えてみたらどうかな。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>知らせたいことが相手に伝わるために、伝えたいことに合った視点を選択していたか、適切な表現で書くことができていたかについて自分の文章を読み直し、よりよい表現にできそうなどところを見付けている。(B-9, 21) (発言・シート)</p> </div>